

労働安全衛生・環境保全 活動報告 2010



不二建設株式会社

はじめに

2010年度 当社の取組

◆労働安全衛生活動◆

現場ではリスクアセスメントを活用した危険予知活動を日々実施しています。また、全社的な取り組みとしては6月の全社安全衛生環境大会を皮切りに、各種安全教育、毎月の店社パトロール、全国安全週間・全国労働衛生週間における全社パトロールを実施し、事故“ゼロ”を目指して活動を行いました。

◆環境保全活動◆

建設機械を数多く使用する当社の工事は生活基盤に関わる工事がほとんどです。そのため、工事中も地域で暮らす方々の生活に配慮した施工（CO2排出量削減、粉じんや騒音・振動の低減）を行ないました。

更に、地域の方々とのコミュニケーションを強めるため地域に根付いた貢献活動も継続して行いました。

産業廃棄物（アスファルト・コンクリート殻、コンクリート殻）の再資源化（破碎処理）も4カ所で行なっています。また、食品リサイクル事業にも取組、産業廃棄物である食料品の残渣を再利用して液肥の製造も行なっています。

◆安全衛生環境大会◆

毎年環境月間である6月の第一金曜日に開催しています。安全・環境のシステムを取り入れている当社では上記の名称で実施しており、協力会社が一同に集まり、新年度の目標の達成を意思統一する場となっています。

2010年度は6月4日に開催しました。

◆安全教育◆

年度当初に社員・協力会社を対象に内外の講師による職長・安全衛生責任者教育、特別教育（ローラー、自由研削砥石）種教育を行い、延41名参加しました。

活動の紹介 (1)

特別教育 2010.05.13～14

ローラー（締固め）



自由研削砥石



職長・安全衛生責任者教育
2010.05.20～21



活動の紹介 (2)

安全衛生環境大会 2010.06.04

社長挨拶



安全工事表彰



講和



決意宣言



大会風景



活動の紹介 (3)

全国安全週間に伴う
全社安全パトロール 2010.07.05

経営体 長都遠軽 第1工区(長沼町)



オホーツク営業所
(雄武町)



市道扇町一九六号線
(滝川市)

活動の紹介 (4)

全国労働衛生週間に伴う
全社安全衛生パトロール 2010.10.01

経営体 本中三川 第1工区(由仁町)



一般国道36号 札幌市 豊平電線共同溝設置工事



活動の紹介 (5)

現場での取組

AEDの設置と使用方法の講習



「現場通信」の発行



小学生向けの工事説明



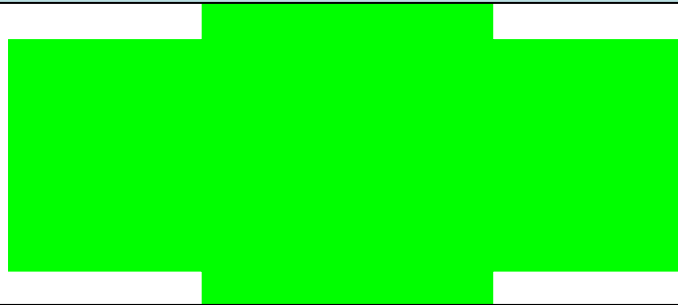
3月11日、施工中の
国道の現場で発注
者からの要請で津波
対策のため通行止
規制を実施



労働安全衛生活動

■労働安全衛生の現状

- ・2010年の全産業と建設業における労災死傷者数・重大事故数は下表の通りです。死者数に占める建設業の割合は31%と多少下がったものの、相変わらず産業別では1位となっています。
- ・当社では久しく起きていなかった休業4日以上が1件発生しました。今までの活動の検証と共に再発防止に向けた活動に取組みます。
- ・事故と共に、安心・安全に働くための健康な身体作りも重要です。情報発信をしながら有所見者の多い現状を変えていくように努力しています。



<労働災害の現状(2010年)>

項 目	全産業	建設業	産業別順位
労災死者数	1,195 (+ 120)	371 (- 6)	1位
労災死傷者数 (休業4日以上)	105,718 (+ 2,041)	21,465 (- 67)	2位
重大災害発生数	245 (+ 17)	87 (+ 12)	1位

()内は昨年との対比

■労働安全衛生目標■

2010年度の目標を下記のように設定しました。

1. 労働災害の防止

- ◆休業4日以上災害発生“ゼロ”
- ◆住宅地での歩行者を巻き込んだ事故“ゼロ”
- ◆掘削に伴うライフラインの破損“ゼロ”

2. 交通災害の防止

- ◆交通規制に伴う一般車による事故“ゼロ”
- ◆社有車による事故“ゼロ”

3. 健康増進

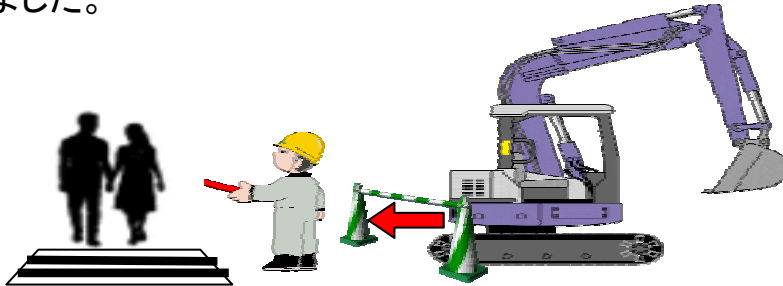
- ◆健康な身体作り意識の向上

1. 労働災害の防止

①休業4日以上災害発生“ゼロ”

●残念ながら1件発生しました。

- ・都市部の夜間作業で、片側2車線の内歩道側1車線を規制し掘削作業中、規制のすぐ外でバックホウに背を向けて歩行者を誘導していた交通誘導員とバックしたバックホウが接触したものです。前日、前々日に同じ形態の作業を行い“何も無かった”ということでしたが、原因を究明する中でやはり“起きるべき”問題点が出てきました。



- ・事故を起こさないために“やるべきこと”は何なのか？配置すべき人、安全施設は当然必要ですが、何よりもまず工事に関わるすべての人が「痛い思いをしない、させない」安全意識を持ち続け、向上させる必要があります。そのための現場管理が必要なのだと、事故が起きるたびに痛感させられます。

“活動の改善“忘れずに！



②住宅地での歩行者を巻き込んだ事故“ゼロ”

◎この目標は達成しました。

- ・都市部では冬期間でも夜間、歩道を通行する自転車が予想以上に多く、また自転車を降りて通る人も少なく、誘導に頭を悩めました。それでも幾つか工夫を凝らしながら事故無く終了出来ました。

「自転車を降りて下さい」のプラカード



音声ガイダンス付看板



③掘削に伴うライフライン事故“ゼロ”

●埋設管(水道管)を破損する事故が1件発生。

- ・直前まで人力により掘削を行い埋設管を確認していないにもかかわらず担当者がその場を離れ、その間に機械で掘削して破損させてしまいました。担当者が持ち場を離れたこと、担当者がいない間に指示がないまま機械を使用したこと、過去にもあった事例であり非常に残念です。

この事故では復旧までに3時間掛かり、水道を利用されている皆さんにご不便をお掛けすることになってしまいました。

- この他にも、掘削時に隣接する倉庫の壁を破損する事故や架空線(電話線1回線)の切断事故が発生してしまいました。



2. 交通災害の防止

◆交通規制に伴う一般車による事故“ゼロ”

◎この目標も達成しました。

- ・現道を規制(2車線→1車線、片側交互通行)することによる車両の流れをコントロールするためには、予告・注意喚起を行い、交通誘導員や安全施設により誘導する必要があります。2010年度も車両の流れ(大型車両の多少)や施工場所や路面状況に合わせ、様々な資機材を使用して対応しました。

予告看板



融雪剤散布



震撼プレート



エアーライト(一時停止)



③社有車による事故“ゼロ”

●社有車（社員）による事故が、残念ながら多発しました。

- ・人身事故（6カ月入院）が1件、物損事故9件。人身も含め、防ぐことの出来る事故がほとんど。たまたま人がいなくて物損で済んだと思われる事故もあり、労働災害を防止するのと同様、絶えず「安全運転」の意識を持ち続けさせることが重要です。また、この目標を達成するためにセーフティーラリーに継続して参加し、完走率70%を目指しましたが下記の達成率です。

不 二	17(25)	68%
協力会	21(43)	49%

事故はこの結果の反映でしょうか。



3. 健康増進

◆健康な身体作り意識の向上

○この目標の評価は正直難しい。

- ・全社員に健康への意識をより深く持ってもらうことを目指し、社内ネットワークによる情報提供を行いました。
「ラジオ体操」は継続して行なわれていますが、参加者は少数に留まっています。それでも、自転車や一駅歩いての通勤が増え、また退勤後の運動等が個々に取り組まれています。
高齢化に伴う高い「有所見者率」を改善するために、こうした取り組みを「継続して行なっていく」ことが重要と考えています。



環境保全活動

■CO2削減に関する日本の現状

2005年の京都議定書による1990年比-6%、また新たに1990年比25%削減する「チャレンジ25キャンペーン」のスタートと、目標だけが一人歩きしています。これが日本の現状ですが、建設機械を多く使用する当社も出来る範囲で活動をしています。



<日本のCO2排出量の現状>

「京都議定書」削減目標
2012年までに -6.0%

2009年（1990年比） -4.1%（※）

※「金融危機の影響による2008年度後半からの急激な景気後退に伴う、産業部門をはじめとする各部門のエネルギー需要の減少による」との観測

■環境目標■

2010年度の目標は下記の通り設定しました。

1. CO2排出量の削減

- ◆工事で使用する建設機械(重点管理)が排出するCO2を9%削減する

2. 資源の有効利用

- ◆主要資材(合材・路盤材・生コン)のロス削減

3. 社会貢献活動の推進

- ◆各サイトで、地域に根ざした活動(イベントへの参加、景観保持、環境保全)を1件以上行う
- ◆身近な貢献活動ーリングプル(12kg)とエコキャップ(20kg)を収集する

◎産業廃棄物の再利用◎

活動状況

1. CO2排出量の削減

◎建設機械が排出するCO2の排出量の削減は14.5%と達成しました。

- ・建設機械を多数使用する建設業の中で舗装工事はその最たる業種と言えます。主に使用するモーターグレーダー・アスファルトフィニッシャー・ローラーによるCO2の排出量削減は、燃料の使用量削減⇒原価の低減に繋がり当社に即した目標です。
- ・2010年度は、標準的な燃料使用量に対する実際の使用量に基づくCO2の排出量は下記の通りです。

標準的排出量	46,580kg-CO2 (17,780ℓ)
実際の排出量	39,840kg-CO2 (15,210ℓ)
削減した燃料(軽油)	1,570ℓ

- ・また、管理部門でもクールビズを実施し、エアコンの温度を28℃に設定するなどCO2排出量の削減に努めています。



2. 主要資材のロスを削減する

- ・主要資材であるアスファルト合材のロス削減は各工事で積極的
に取組まれ、ロスを減らすことが出来ました。この減少により製
造・運搬・施工に伴うCO2の排出量(燃料)を減らすことになり、
結果として“利益”の増加にも結びついています。今後も大いに
取り組んで行きます。路盤材、生コンに関しては、対象となる
工事があまりありませんでした。

3. 社会貢献活動の推進

1. 小学校に対する貢献活動

＜運動会でトイレの提供と建設業のPR＞



＜緑のオジサン＞



＜通学路に看板設置＞



＜構内の排雪と補修＞



2. 地域に対する貢献活動

＜創成川通りボランティアサポートプログラム(札幌市)＞



＜地元商店街・町内会のイベントに協力＞

＜たきかわクリーンデー(滝川市)＞



◎セーフティーラリー完走賞の寄贈

- ・2010年度のセーフティーラリーは目標を達成出来ませんでした
が、「完走賞」は今年も「公益財団法人 そらぷちキッズキャン
プ」に贈呈しました。

贈呈は2011年5月23日に「そらぷち」を訪問し、事務局長代
理の佐々木さんに受け取って頂きました。

3回目の贈呈となりますが、初めての訪問ということで佐々木
さんに施設を案内して頂きました。

完走賞の寄贈



保健室



模型による説明



事務所棟



◎リングプル(10kg)、エコキャップ(22kg)の収集

＜リングプルの収集＞

- ・全社で11.3kgと残念ながら目標を下回りました。当社も含め、管内の加盟する会社で収集したリングプルは空知建設業協会で集約し、2007年からの協会の累計は390kgになりました。

＜エコキャップの収集＞

- ・全社で28.8kg収集しました。
目標20kgを超過達成です。
エコキャップも空知建設業協会に
集約し、2009年からの協会の
累計は344kgになっています。



◎産業廃棄物の再利用

アスファルトコンクリート,コンクリート殻の中間処理

- ・現在全道4カ所(滝川市、雄武町、浦河町、長万部町)で産業廃棄物中間処理施設が稼動しており、廃材(アスファルトコンクリート殻とコンクリート殻)の破碎処理による産業廃棄物の再生利用を行なっています。

2010年度の結果は下表の通りです。

産業廃棄物(廃材)の発生量・使用量には地域差もありますが、ここ数年の工事の減少に伴い有効活用するための「受入→処理→利用」のサイクルが崩れてきています。一部の施設では、使用量が少なすぎて廃材が減らず受入れを中止せざるを得ない状況^{単位(t)}や、取りあえず受入を優先し処理を進めるために置場を確保して再生骨材を堆積している状況も生まれています。

2010年度	廃材受入量	11,442
	破碎処理量	24,362
	販売・使用量	23,856
2011年3月末	廃材保管量	39,923
	再生骨材保管量	8,937

◎産業廃棄物の再利用

食品リサイクル事業への取組

- ・2009年からスタートした食品リサイクル事業でも、食品製造業者からの残渣を受入・処理し、液肥(商品名:ひまわり)を製造することで産業廃棄物の再利用を行なっています。
2010年度は76.2tの残渣を受入れ、223m³の液肥を製造しました。今後この「ひまわり」の販売と、「ひまわり」を使った農産物の生産を拡大して行きます。

イメージキャラクター「ハル太郎」

